

新聞が学力向上の一助

鍛国研セミナー

NIEアドバイザーで空知管内妹背牛小の柳谷直明校長(53)が代表を務める「鍛える国語教室」研究会(鍛国研)北海道ゼミは5月3日に札幌市(会場・札幌エルプラザ)、6月21日に釧路市(同・コアかがやき)でそれぞれ国語科「学習用語・指導法セミナーを開いた。取材やメモの取り方、それを基にした文章表現など新聞の「作法」を取り入れた模擬授業も公開した。

鍛国研は元函教大教授の野口芳宏氏が主宰する全国的な団体。学習指導要領でのNIE活動に取り組むうちますます強く感じているのは多くの方の手を借りながら実践することの大切さです。

私の実践事始めは、自學級だけでの活動でした。教室の掲示板に「道新小学生新聞週刊フムフム」を張り出して子供たちの興味を喚起する。授業で使えそうな新聞をスクリプトして活用する。慣れたら朝の会でスクラップ記事の発表を行う、など活動です。

しかし単学級でするよりは学年、学校で取り組んだ方がよりよい実践が

富良野小教諭

大武 敦史



NIE実践奮闘記

は論理的な思考力や表現力の育成を求めているが、その前段ともいえる基礎的な

鍛国研の支部に当たる北海道ゼミは、表現力や言語活動を豊かにするために欠

い。

鍛国研の支部に当たる北海道ゼミは、表現力や言語活動を豊かにするために欠け、偶数学年は『習得』に充て、2年間かけて理解させるやり方(柳谷校長)と

いう。

鍛国研の支部に当たる北海道ゼミは、表現力や言語活動を豊かにするために欠け、偶数学年は『習得』に充て、2年間かけて理解させるやり方(柳谷校長)と



セミナーで国語の指導法を紹介するアドバイザーの柳谷校長

かせない教材として新聞を活用。

心メンバーとして活躍している。

セミナーでは、学力向上を大きな柱に据えた。今年4月の全国学力テスト・小

路市立芦野小教諭(43)がNIEアドバイザーで、実践校を経験した太田等・根立早来小教諭(39)らが中

学6年の国語では「引用」のほか、「議題」「さくいん」「観点」「適切」。算数でも「小節」「床の間」「一あた半」「具体例」「玉じやくし」とい

う。ほか、「議題」「さくいん」「観点」「適切」。算数でも「小節」「床の間」「一あた半」「具体例」「玉じやくし」とい

う。

う。

知恵と人手の積み重ね

を利用し、未購読の各家庭に1週間、新聞を配達していくなどしてみました。そうすることで学級・学年全員でコンクールに参加することができました。

前任校では道新小学生新聞週刊フムフムを、毎年も良策です。私は校区の地域の協力を仰ぐこと

新聞販売店と連絡を取つて学年人数分の古新聞をいただき、新聞スクラップの授業を行つていま

いが深まるような活動もしました。実際、どの子も毎回楽しそうに新聞を読む姿が見られました。

さまざまな方や関係各

所の協力によって、個人ではなかなか難しい実践も可能となります。まずは実践者自らが実践の紹介者となり学校内にNIE活動を伝えていくこと、校区の販売店などと親しくなり学校との仲介者になって学校に新聞がある環境づくりを進める

こと、そしてちょっぴり骨を折つて実践校に立候補することなどにチャレンジしてみてはどうでしょうか。

柳谷校長は「分からぬ言葉を、理解するまで系統的に教えないと他教科の学力にも影響し、学ぶ意欲自体をそいでしまう。国語科目をそいでしまう。国語科は学力の源で、教師には優れた指導技術が求められ

理解していないため答えを書けない子が少なくなかつたという。このうち札幌会場には道内各地から約20人の教諭が参加。富樫、渥美両教諭が講師を経験した太田等・根立早来小教諭(39)らが中学生で習う句読点についても「マルやテンではなく、3年で句点、読点と3年の時点で句点、読点と教えるべきだ」と指摘した。

渥美教諭は、スピーチ、

ボスター・セッション、パネル・ディスカッションなど3年

いう1・3・5年向けの指導法を担当。あいさつから始まる取材の基本やポイント、メモの取り方、作文の

まとめ方なども教えた。

また太田教頭は、北京五輪で北島康介選手に関する二つの記事を読み比べる單

元「新聞を読もう」の教科書(光村図書出版、小学5年)を使って模擬授業した。

受ける印象を、児童に思考させ、短い文章にまとめる方法を分かりやすく指導し

14年度 NIEセミナーの日程

名 称	開催期日	場 所
釧路	6月26日	釧路市立中央小
北広島	8月5日	石狩教育研修センター
稚内	8月8日	稚内市立図書館
名寄	未定	未定
網走	9月5日	網走市立網走小
函館	9月26日	函館市立日吉が丘小
今金	10月	未定
岩見沢	10月24日	岩見沢市立明成中
札幌	11月	道新プラザ DO-BOX
苦小牧	11月	未定
旭川	12月5日	旭川市立旭川中
室蘭	12月	未定
帶広	2月7日	道新帯広支社

道NIE推進協2014年度役員
(6月25日現在) =敬称略

顧問 立川 宏・北海道教育委員会教育長
同 町田 隆敏・札幌市教育委員会教育長
会長 高辻 清敏・日本NIE学会理事
副会長 西崎 毅・道教育庁学校教育局長
同 大友 裕之・札幌市教委学校教育部長
同 豊島 義明・北海道NIE研究会会长
同 小沢 一記・北海道十勝新聞教育研究会会长
同 広瀬 兼三・北海道新聞経営企画局長
幹事 西川 祥一・朝日新聞北海道支社
報道センター長
同 永田 耕司・十勝毎日新聞札幌支社長
同 玉置 薫・釧路新聞札幌支社長
監事 山科 武司・毎日新聞北海道支社編集部長
同 松垣 透・産経新聞札幌支局長

新聞を使つた学校での学習について研究する北海道十勝新聞教育研究会は4月26日、定期総会を帯広市立西小で開き、新しい会長に鹿追町立鹿追中校長の小沢一記氏を選出した。

新会長は小沢校長

十勝新聞研総会

本年度は第19回全十勝小中学生新聞スクラップコンクールと第13回帯広・十勝セミナー(道NIE推進協議会と共催)を開くほか、当日前行の新聞を使って指導案を作る月例学習会を行なう。また、全国新聞教育研究大会(千葉県市川市)やNIE全国大会(徳島県)への会員派遣を決めた。



道NIE懇談会

新規実践者にアドバイス

中原英雄教頭(白糠町立庶路小)は「特別支援学級の子どもたちには『あす天気』『おくやみ欄』など、社会人になつて必要な新聞情報の読み方、活用の仕方を学習させる方法もある」とアドバイスした。
高橋恒雄教頭(小樽市立北山中)と、渥美清孝教諭(釧路市立芦野小)はそれぞれ「川柳の創作指導に当たってきたが投稿欄に自分の作品と名前が載れば子どもたちの自信につながる」、「記事の音読は文章の理解に加え表現力向上に効果がある。ぜひ実践してほしい」と述べた。

懇談会で自己紹介する中原教頭(奥右端)ら、3人のNIEアドバイザー

総会に続くNIE懇談会では、公用で欠席した平沼和彦教諭(函館市立亀尾中)を除く、3人の新NIEアドバイザーによる実践例の紹介と、出席者との質疑応答が行われた。

2014年(平成26年)6月25日

一方、NIEアドバイザーの福沢秀・旭川市立春光台中教頭が「全校に広げようNIE」のテーマで講話した。

福沢教頭は「まず自分の

学級からNIEを広げるこ

とが肝心」と切り出し、休

み時間に教室で気になつた

記事を読んでやつたり、日

直にニュース紹介を担当さ

せたりするなどの具体例を

挙げた後、「次の段階では

かの先生と取り組める活動

を探すことが大切。例えば

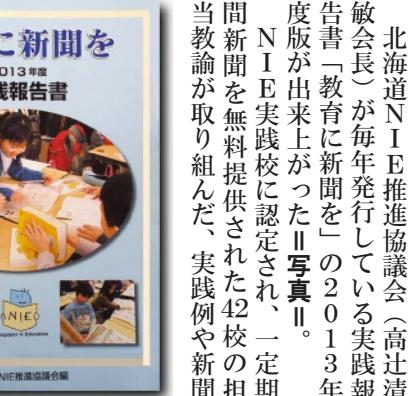
新聞活用の授業実践で交流

するという手もある」と述べた。

また実践校独自で、新聞活用ができる単元に焦点を

当てた年間指導計画を作成

することも勧めた。「それには管理職の理解と協力が必要。校内研修にNIEを取り入れたりすることができれば、学校で一気にNIEが広がる」と締めくくつた。



13年度 実践報告書が完成

道NIE研 新聞夜塾 9回開講予定



計9回の開講を予定してい

る。予算額は約18万9千

円。総会で豊島会長は「自

ら学び、自ら考える力を新

聞活用によつて育てたい

とあいさつした(写真)。

主な事業は次の通り。

①夏季研修会(8月6日、石狩教育研修センター)②第19回北海道NIE研究大会(11月14日、立命館慶祥中学・高校)③冬季研修会(1月6日、道新NIEプラザ)

A4判、173ページ。干部を印

刷し希望者に無料提供する。問い合わせは当協議会事務局(北海道新聞社内☎011・210・5802)へ。

活用例などが掲載されている。

日本新聞協会委嘱のNIEアドバ

イザーで、釧路市立芦野小の渥美清

孝教諭(当時6年生担任)は、新聞

記事から見出しやリード、5W1H

を読み取らせる指導をした後、実際

にインタビューとメモを取る体験を積ませ、仕上げとして織田信長らを扱った「歴史新聞」を作らせる実践例を紹介した。渥美教諭は「国語科に社会科の学力向上を目指した。新聞は思考力・表現力を育てる有効な教材」とりポートをまとめている。

教材」とりポートをまとめている。

道内高校新聞

10

ナウ

～総集編～

2112年4月（第57号）に始まった連載企画「道内高校新聞ナウ」は、計9校の新聞局（部）を紹介した。順に札幌開成、帯広柏葉、旭川商業定時制、足寄、留萌千望、札幌啓成、函館水産、北海、士別翔雲。それぞれに取材と編集に工夫を凝らしながら特徴ある紙面展開している様子を目の当たりにし、頼もしく感じた。学制改革に伴い1948年に新制高校が誕生する。この年の12月、産声を上げたのが北海高校新聞だ。当時を知るOB、相神達夫さん（84）は元北海道新聞記者が高校新聞の後輩たちへ熱いメールを送る。

（葛西信雄・北海道新聞NIE推進センター委員）

2112年4月（第57号）に始まった連載企画「道内高校新聞ナウ」は、計9校の新聞局（部）を紹介した。順に札幌開成、帯広柏葉、旭川商業定時制、足寄、留萌千望、札幌啓成、函館水産、北海、士別翔雲。それぞれに取材と編集に工夫を凝らしながら特徴ある紙面展開している様子を目の当たりにし、頼もしく感じた。学制改革に伴い1948年に新制高校が誕生する。この年の12月、産声を上げたのが北海高校新聞だ。当時を知るOB、相神達夫さん（84）は元北海道新聞記者が高校新聞の後輩たちへ熱いメールを送る。

（葛西信雄・北海道新聞NIE推進センター委員）

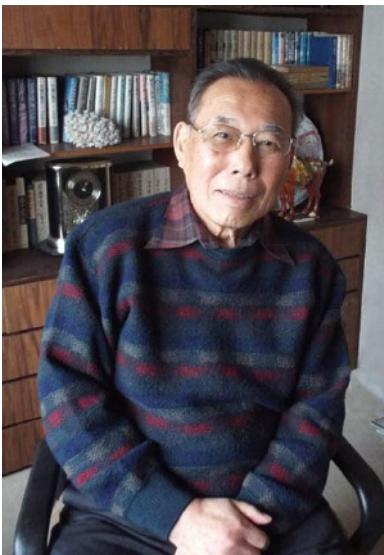
書きたいものを書きなさい

北海OB相神氏がエール

高校新聞に携わる後輩たちにエールを送る相神さん

44年に旧制北海中学に入學、4年生まで旧制で過ごし、48年に新制高校2年になりました。卒業は翌49年、つまり僕は北海高校2年生ということになりました。それを見た。それを見て触発されてね。「新聞つくるぞ！」と仲間を糾合して、夏ごろに準備を始め、年末ぎりぎりの12月、北海高校新聞第1号を出します。今の札幌南や札幌西なども同じころの創刊だったと思います。

終戦までは「国のために毛（こうもう）おまえらの命は鴻毛（こうもう）より軽し」と教え込まれました。それが日本が負けるとどうですか、「生命は地球より重し」ですよ。価値観が180度変わったんですね。当然、若者は荒れますよ。校内も暴力が多くてカオス（混と



高校新聞に携わる後輩たちにエールを送る相神さん

編集後記

○…子どものころ、若い漁師が海中に転落した現場に居合わせた。港で作業中、誤って落ちたのだ。初めのうち周りにいた仲間たちはやんやとはやし立てていたのだが尋常ならざる形相に驚き、数人が衣服を脱いで海に飛び込み救出した。泳ぎ上手の漁師も、ゴムのカッパを着用した究極の「着衣水泳」で身動きが取れなかったのだ。

○…韓国セウォル号沈没事件で、船長が下着姿で助け出される新聞写真を見た瞬間、若い漁師のことを思い出した。衣服の枚数に比例して海水の吸収量は増え、その分、助かる確率が減じる。要は裸に近ければ近いほど泳ぎやすくなる。海の男の船長は、そのことを知り尽くしていて制服も「シーマン・シップ」さえも脱ぎ捨て、生きながらえようとした、と直感した。

○…やりきれないのは修学旅行中の高校生たちだ。彼ら彼女たちはやがて親になり、祖父母になり、曾祖父母になり…。有り体に言えば、無限の命をつないでいく存在だった。当局は船長ら乗員幹部を「不作為の殺人」と断定したが、想像を絶する人数の「殺人者」になってしまったと言えまい。「船室で待機せよ」。今となっては身の毛もよだつ情報を信じた高校生たちが、かわいそうで仕方がない。（葛）

い。風に背を向けてるのは、楽だけど、逆風に立つことは勇気を必要とするんです。しかし、この勇気を持つことが必ず将来の己の人生の役に立つんです

ね。自分の信ずることを実践してください。諸君には若さがあります。残された時間もたっぷりと話している。

IIおわり

8月1日の2日間、徳島市・あわぎんホールを会場に開かれる。

初日の31日は苅谷剛彦オックスフォード大学教授による記念講演『賢い

全国大会徳島大会（日本新聞協会主催）が7月31日、

「よき紙（市）民になるNIE活動」を大会ス

NIE全国大会

（四国での全国大会開催は6年ぶり。主管する徳島新聞社は「800人程度の参加を見込んでいます」）

お知らせ



市民」と教育の後、徳島県NIE推進協議会会長の原卓志・鳴門教育大学教授の基調講演と、「子どもが意欲的に取り組む新聞活用の在り方」と題したパネルディスカッションを行なう。最終日の1日は、鳴教大付属中学校など6校による公開授業のほか、ローガンに第19回NIE

Eのポイント」をはじめとする六つの特別分科会を行う。

四国での全国大会開催は6年ぶり。主管する徳島新聞社は「800人程度の参加を見込んでいます」